

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(GCC: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/GCCgeneral.html>)

マイライブラリー:0208

(注)本稿は 2011 年 11 月 19 日から 25 日まで 3 回にわたって「アラビア半島定点観測」に連載されたレポートをまとめたものです。

2011.11.25

前田 高行

## 中東の大型商談で連戦連敗のフランス

目次	頁
1. はじめに	1
2. 中東各国と原子力協定締結	2
3. GCC の鉄道整備計画に食い込む	2
4. Rafale 戦闘機の売り込み	3
5. ハイテク技術の無いメイド・イン・フランス	4
6. イラク、リビアの戦災復興需要が頼り	5

### 1. はじめに

フランスが中東の大型商談で連戦連敗している。ケチのつき始めは 2009 年末の UAE 原発商談である。米仏が激しい受注競争を繰り広げサルコジ大統領は自ら UAE に乗り込んだが伏兵の韓国に原子力発電所 4 基、総額 400 億ドルの大型案件をさらわれた。韓国勢の受注は当のフランスのみならず世界中を驚かせたが、李明博大統領を先頭に官民の総力をあげた韓国の勝利であった<sup>1</sup>。

2009 年以降、中東特に石油の高価格でブームに沸く湾岸諸国では電力、水、鉄道などのインフラ・プロジェクト、石油精製・石油化学プラント或いは戦闘機調達と言った大型商談が目白押しであるがフランスは殆ど受注を逃している。最近の例を見てもサウジアラビア西部のマッカ・マディナ・ジエッダを結ぶいわゆる「巡礼鉄道建設プロジェクト」ではスペイン・グループに敗退し<sup>2</sup>、また仏が誇る最新鋭ジェット戦闘機 Rafale の初の海外輸出として注目を浴びていた UAE 向け商談は、アブダビ皇太子から「使い物にならず競争力も無い(unworkable and uncompetitive)」とこき下ろされ、メーカーのダッソー社は面目丸つぶれである。

フランスが輸出戦略商品として特に力を入れているのは原子力発電、鉄道そして戦闘機である。同国は世界一の原発大国であり、Areva 社が製作する加圧水型原子炉は安定した運転を誇っている。鉄道についてはパリーリヨン間を結ぶ高速鉄道 TVG の技術と運行実績をベースにして世界各地に売り込みを図っている。そして戦闘機については上述のとおり Rafale の売り込みに躍起であ

る。

しかし懸命の努力にもかかわらずフランスは中東で大型プロジェクトを受注できない。その原因は大きく分けると二つある。一つは中東各国のプロジェクト見直しの機運である。福島原発事故の結果、中東各国の原発推進機運は後退し、また景気の悪化により鉄道など不要不急のプロジェクトが先延ばしされている。これらは世界的な動向でありフランス自身に原因するものではないが、フランスが大型プロジェクトを受注できないもう一つの理由は他の先進国に比べ同国のハイテク技術が見劣りし、フランスの工業製品に国際競争力が欠けていることにある。後者の理由はフランスの輸出政策にとって大きな問題だと言えよう。

## **2. 中東各国と原子力協定締結**

原発輸出の第一ステップは二国間の原子力平和利用協定を締結することである。中東は原発処女地として先進各国が力を注いでおり、日本もヨルダンと協定を結んだが(2010年)、フランスは特に熱心で2008年1月のUAEとの協定締結を手始めに<sup>3</sup>、ヨルダン(2008年6月)<sup>4</sup>、クウェイト(2010年1月)<sup>5</sup>、サウジアラビア(2010年7月)<sup>6</sup>とも同様の協定を締結している。

UAEの原発商談は協定締結の数年前から始まっており、当初米国のGE、ウェウティングハウスとフランスのAreva社の3社による競争と見られていた。両国とも大統領が乗り出して受注を目指したが、特にトップ・セールスに熱心だったのはフランスであった。シラク前大統領はUAEの気を惹くためアブダビにルーブル美術館の分館を建設することすら認めたのである。勿論分館の建設運営そのものによりコンサルタント料や美術品貸出料などで法外な利益が見込まれたが、本音は原発プラント受注のための手土産であったことは間違いない。

シラクの後を継いだサルコジ現大統領も就任間もない2008年1月、原発及びRafale戦闘機(後述)の受注を目的にUAEを訪問した。しかし結局原発プラントそのものは韓国が受注、負けた相手が韓国であったことはプライドの高いフランスの威信を深く傷つけたのであった(因みに原子炉本体の製造技術は日本の東芝、日立、三菱重工業が持っており、米仏3社のいずれが受注しても良かった)。

巻き返しを図るフランスはクウェイト、サウジアラビアなどとの商談に力を注いだ。が、いずれの国も決断が鈍くずると時間が過ぎた。その時突然降りかかったのが福島事故という原発の歴史上最悪の事件である。このため中東ではUAEに続く原発建設国は未だに現れない。世界同時不況の恐れが追い打ちをかけ現在のところ原発建設にゴーサインが出る見通しは立たない。

## **3. GCCの鉄道整備計画に食い込む**

フランスのプラントビジネスの強みは官民一体の体制を組んでいることである。しかも大統領が率先して受注活動を行うのが特徴である。米国や日本も国策に沿った大型案件では政府が協力するが、あくまでも民間企業を後押しすると言う姿勢が強い。受注獲得を目指す企業が孤軍奮闘しているのが日本のプラントビジネスの実情である。

但し石油化学などモノづくりの合弁事業の場合、中東各国は国内市場が小さく、また海外に販売ルートがないため、国内消費量を上回る製品の引き取り義務を外国側パートナーに課する例が多い。日本の場合は総合商社がメーカーと組んでプラントの建設及び製品販売の両方を行うことが可能である。しかしフランスはその面が弱い。

原発による電力或いはここで触れる鉄道建設などはそのような制約がなくフランスにとって取り組みやすい案件である。しかもこれらの案件では政治力がものを言う。この点はフランスのお箱である。フランスが原発と鉄道商談に力を入れるのはこのような理由からである。但し鉄道建設のうち貨物専用鉄道や貨客併用の在来型など技術力を余り必要としない通常のプロジェクトは中国、韓国などコスト競争力が高い国が有利でありフランスの出番はない。フランスが目指すのは高速鉄道や大都市のモノレール、トラム(地下鉄)のような技術力と設計施工実績がものを言うプロジェクトである。

GCC 諸国には鉄道プロジェクトがいくつかある。サウジアラビアの場合は西海岸の「巡礼鉄道」(ハラメイン高速鉄道)及びリヤドージェッダ間の鉄道プロジェクト(ランドブリッジ鉄道計画)がある。カタールとバハレーンには海上橋「フレンドシップ・コーズウェー」を経由して両国の首都を結ぶ高速鉄道計画がある。さらにペルシャ(アラビア)湾沿いに GCC6 カ国を貫通する鉄道プロジェクトも計画されている。フランスはこれら全てに計画段階から関与しており、プロジェクトの受注を狙っている。

しかしこれまでのところフランスはいずれのプロジェクトについても受注できていない。サウジアラビアの「巡礼鉄道」については先月末、スペインの企業連合が落札した。同じサウジアラビアの「ランドブリッジ鉄道計画」は近く受注企業が決定する見込みである。但しこの鉄道は在来型に近くTVGのような高速専用型ではないためコスト勝負となり仏企業連合は苦戦を強いられる。

残るカタール-バハレーン鉄道は昨年6月に海上橋建設計画の凍結が報じられ、鉄道工事の入札も宙に浮いたままである。さらに今年春バハレーンで騒擾事件が発生したため、建設資金の大半を負担するカタールは自国への波及を恐れ鉄道建設計画の実現は遠のいた感がある。GCC 貫通鉄道については GCC 首脳会議で前向きな発言もあるが、もともとプロジェクトの採算性が大きな問題であり、現在のような景気低迷下では計画が先送りされる可能性が高い。いずれにしてもフランス企業が近い将来 GCC 諸国の鉄道プロジェクトを受注できる見通しは暗いと言えよう。

#### **4. Rafale 戦闘機の売り込み**

Rafale は Mirage の次期戦闘機として開発されたものである。Mirage は UAE 及びカタールに納入されている。因みにカタールは NATO の対リビア空爆作戦に自国の Mirage を提供している。フランスは国威をかけた Rafale 戦闘機を世界各国に売り込んだが、米国のボーイング、ロッキード及び英国のBAE(ユーロファイター)の牙城を切り崩すことができず、未だに1機も輸出できないままである。国防予算が潤沢で Mirage の納入実績がある UAE とカタールに対しフランスは猛烈なセールスをかけたのである。

アブダビのルーブル美術館分館建設は原発と戦闘機受注のためのフランスの手土産であることは先に述べたが、フランスはこれに加えてもう一つの手土産を用意した。2008年1月、サルコジ大統領はUAEを訪問、原発協力と合わせて軍事協力協定<sup>7</sup>を締結し、翌年5月には500人規模の仏海軍基地を開設したのである<sup>8</sup>。アラビア(ペルシャ)湾にはこれまで米国がカタール(ウデイド空軍基地)、バハレーン(第5艦隊基地)及びクウェイト(イラク後方支援基地)に基地を設けているが、米国以外ではフランスのUAE海軍基地が初めてである。

アラビア(ペルシャ)湾対岸のイランは宗教がイスラム教シーア派であり、かたやGCC諸国はスンニ派が多数を占めている。そしてイランは宗教指導者による共和制であるのに対してGCC諸国は君主制国家であり、イランのような民衆革命を最も恐れている。このようにイランはGCC諸国にとって常に脅威的である。GCCは経済力こそあるものの国防能力はイランに劣る。そのためGCCはアラビア湾の防衛体制を欧米に依存せざるを得ないのである。さらにUAEの場合はアラビア湾の3島を巡るイランとの領有権争いを抱えている。そのような地域情勢であるが、米国はペルシャ湾から太平洋にシフトしようとしており、フランスはUAEの後ろ盾となることをアピールし自国の戦闘機(及び兵器)を売り込む絶好のチャンスなのである。

2008年7月、UAEは現有のMirage 60機をRafaleに代替することを真剣に検討中である、と表明したが、1年後の海軍基地開設時も態度を明確にしなかった<sup>9</sup>。そしてついに今月半ばアブダビのムハンマド皇太子はRafale戦闘機メーカーのダッソー社の提示条件は「話にならない(unworkable and uncompetitive)」とこき下ろした。交渉の過程でUAE側はもっと強力なジェットエンジン及び高性能なレーダーシステムに取り換えるよう要求したが、ダッソー社がそれを拒んだと言われ、UAEの当局者はダッソー社の態度が傲慢である、と非難した<sup>10</sup>。

UAEはRafaleの強敵Typhoonのメーカー英BAE社を呼びつけて交渉を始めた。但しムハンマド皇太子はダッソー社を非難しているもののサルコジ大統領の指導力は称賛している。UAEは大統領が外交的、政治的な決断をすることを期待しているようである。

## 5. ハイテク技術の無いメイド・イン・フランス

中東の市街地ではフランス製の自動車や家電製品を見かけることはほとんどない。民生用の先端技術商品ではフランス製品は明らかに見劣りがする。フランスにもルノーやプジョー・シトロエンのような世界的な自動車メーカーがあり、エレクトロニクスメーカーも多々あるが、トヨタ、GM、メルセデスなど日米独の自動車メーカー或いはソニー、サムソンなど日韓のエレクトロニクスメーカーのように世界の隅々のマーケットに浸透している製品は余りない。

フランスにハイテク技術が無い訳ではない。同国が得意とする原発や戦闘機、高速鉄道にはハイテク技術が使われている。問題はハイテク技術が一部の産業に偏っており、また技術の他産業への応用つまり異業種とのコラボレーションが乏しいことではないかと考えられる。Rafale戦闘機の商談でUAE側がエンジンをSafranグループのSnecma社製に、またThales社製レーダーを更に高性能な他社製への変更を要求したが、本体メーカーのダッソー社はこれを拒否した、と報じられている<sup>11</sup>。

原発について言えば福島原発の汚染水処理に Areva 社が持ち込んだ処理装置はトラブル続きで事故処理の足を引っ張り、結局東芝製に切り替えたと伝えられている。

世界の市場でフランス製の液晶テレビ、スマートフォンなど民生用電子機器はまったく見かけない。フランス国内では国産品が流通しているものと思われるが、海外市場に出回らないのは品質及び価格の面で国際競争力がないからに違いない。国内市場がそれなりの規模であり、フランス人は国産品に対する愛着が強いため、メーカーはそれに安住して過酷な世界市場の競争を避けているとしか思えないのである。中東のスーパーマーケットにはフランスの酪農製品が氾濫しており、フランスはむしろ農業大国と言うべきかもしれない(中東はイスラム圏のため仏の誇るワインはないが)。

但しフランスはハイテク技術で他の欧米先進国や日本、韓国に劣るものの、水・電力の分野では複合的なプラントをシステム全体で運営する優れたノウハウを持っている。水関連の総合企業 Veolia Water 社は上水道から下水道に至る水処理施設を設計・建設し同時に設備の補修、料金の徴収など複雑多岐な事業を数十年間にわたって請け負う民営化プロジェクトに強みを持っている。同社は今年 1 月オマーンの水電力省とそのような契約を締結した<sup>12</sup>。また GDF Suez 社は電力・ガスの供給実績では世界 2 位の規模を誇っており、同じオマーンで日本の双日、四国電力とコンソーシアムを組み IPP(独立発電事業)プロジェクトに取り組んでいる<sup>13</sup>。

## **6. イラク、リビアの戦災復興需要が頼り**

フランスは中東のビジネス商戦で苦戦している。しかしフランスと中東は歴史的に深い関係で結ばれ、米国や極東の日韓両国よりも地理的に近いためビジネスのつながりは強い。現在フランスが狙っているのは独裁政権が倒れた後、国内の混乱が収束しつつある国々における復興需要である。イラクは 2003 年のフセイン政権崩壊後も長らく混乱状態を続けていたが、最近インフラ設備の復旧工事に本格的に着手した。これを受けて発電設備や車両製造の世界的メーカー Alstom 社は既にバクダッドの地下鉄、ニネヴェの発電所工事などを手掛け、最近ではマンスリーヤの発電プラントを 5.5 億ドルで受注している<sup>14</sup>。また石油分野では国際的企業の Total が第二次入札でハルファヤ油田開発事業を落札(オペレーターは中国 CNPC)、石油・ガスのエンジニアリング企業 Technip も近々契約を締結すると報じられている。

カダフィ政権が倒れ民主化の道を歩み出した北アフリカのリビアの場合、フランスはさらに積極的である。そもそもフランスは NATO の空爆を主導したこともあり、政権交代後の復興需要を取り込もうと積極的に動いている。9 月初めには Total, GDF Suez, Peugeot など仏の名だたる企業のトップが二千億ドルとも言われるリビア復興需要についてパリで会議を開催した<sup>15</sup>。リビア新政権の核となる TNC 首脳がベンガジからトリポリに乗り込んだわずか 6 日後の 9 月半ばには、サルコジ大統領がイギリスのキャメロン首相とともにトリポリを訪問している。

イラクとリビアは治安が完全とはとても言えない。それでもフランスはリスクを覚悟でビジネスチャンスを求めている。ハイテク製品の市場は平和で繁栄した国々であるが、それを持たないフランスは日本とは異なる市場で異なる対応を見せているのである。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; [maeda1@jcom.home.ne.jp](mailto:maeda1@jcom.home.ne.jp)

---

<sup>1</sup>詳しくは「UAE にアラブ初の原発建設」(2010 年 1 月)参照  
<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0127NuclearPlantInUae.pdf>

<sup>2</sup> Arab News on 2011/10/26, 'Saudi-Spanish group bags rail contract'  
<http://arabnews.com/economy/article524899.ece>

<sup>3</sup> Khaleej Times on 2008/1/16, 'France, UAE sign military, nuclear agreements'

<sup>4</sup> Jordan Times on 2008/6/1, 'Jordan, France sign cooperation agreement'

<sup>5</sup> Gulf Times on 2010/1/15, 'France and Kuwait sign nuclear deal'

<sup>6</sup> Arab News on 2010/7/6, 'Kingdom, France to sign nuke accord'

<sup>7</sup> Khaleej Times on 2008/1/16, 'France, UAE sign military, nuclear agreements'

<sup>8</sup> Khaleej Times on 2009/5/22, 'French naval base opens today'

[http://www.khaleejtimes.com/DisplayArticle.asp?xfile=data/theuae/2009/May/theuae\\_May643.xml&section=theuae&col=](http://www.khaleejtimes.com/DisplayArticle.asp?xfile=data/theuae/2009/May/theuae_May643.xml&section=theuae&col=)

<sup>9</sup> Khaleej Times on 2009/5/22, 'UAE still in talks go buy Rafale jets from France'

[http://www.khaleejtimes.com/DisplayArticle.asp?xfile=data/theuae/2009/May/theuae\\_May642.xml&section=theuae&col=](http://www.khaleejtimes.com/DisplayArticle.asp?xfile=data/theuae/2009/May/theuae_May642.xml&section=theuae&col=)

<sup>10</sup> Kuwait Times on 2011/11/17, 'UAE slams Rafale jet bid as 'unworkable'

<sup>11</sup> Kuwait Times on 2011/11/17, 'UAE slams Rafale jet bid as unworkable'

<sup>12</sup> Oman Daily Observer on 2011/1/13, 'PAEW inks RO 16.8m management agreement with Veolia Water'

<sup>13</sup> Oman Daily Observer on 2010/5/29, 'GDF Suez consortium to develop \$1.8bn Barka, Sohar power projects'

<sup>14</sup> Arab News on 2011/11/2, 'Alstom awarded \$550m Iraq power contract'

<sup>15</sup> Gulf Times on 2011/9/8, 'French companies eyeing \$200bn Libya opportunity'